

〔試験問題〕

食・健康学科

小論文

【 60 分 】

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題は 4 ページから 5 ページにあります。
- 3 解答用紙は、和文用と英文用があります。どちらか選んで解答して下さい。
- 4 試験中に問題用紙の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 試験開始と同時に解答用紙の**受験番号欄に受験番号**を記入してください。
- 6 試験終了後、**問題冊子は持ち帰ってください**。

【問題】日本の健康づくり施策のひとつ「21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21）」について、次の問 1 と問 2 に答えなさい。

問 1. 「健康日本 21」の策定の背景および趣旨を以下に示す。策定の趣旨の中に、健康の実現には「…社会全体としても、個人の主体的な健康づくりを支援していくことが不可欠である」とあるが、個人による健康の実現に、なぜ社会全体として支援することが必要か、あなた自身の考えを 200 字以内で述べなさい。

＜「健康日本 21」策定の背景＞

我が国の平均寿命は、戦後、国民の生活環境が改善し、医学が進歩したことによって、急速に延伸したため、我が国はいまや世界有数の長寿国となっている。しかし、人口の急速な高齢化とともに、生活習慣病及びこれに起因して痴呆、寝たきり等の要介護状態等になる者の増加等は深刻な社会問題となっている。

このような人口の高齢化及び疾病構造の変化を勘案すれば、21 世紀の我が国を、すべての国民が健やかで心豊かに生活できる活力ある社会とするためには、現在の疾病対策の中心である疾病の早期発見や治療に留まることなく、生活習慣を改善して健康を増進し、生活習慣病等の発病を予防する「一次予防」に重点を置いた対策を強力に推進して、壮年期死亡の減少及び痴呆もしくは寝たきりにならない状態で生活できる期間(以下「健康寿命」という)の延伸等を図っていくことが極めて重要である。

＜「健康日本 21」策定の趣旨＞

健康を実現することは、元来、個人の健康観に基づき、一人一人が主体的に取り組む課題であるが、個人による健康の実現には、こうした個人の力と併せて、社会全体としても、個人の主体的な健康づくりを支援していくことが不可欠である。そこで、「21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21）」では、健康寿命の延伸等を実現するために、2010 年度を目途とした具体的な目標等を提示すること等により、健康に関連する全ての関係機関・団体等を始めとして、国民が一体となった健康づくり運動を総合的かつ効果的に推進し、国民各層の自由な意思決定に基づく健康づくりに関する意識の向上及び取組を促そうとするものである。

出典：厚生労働省「21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21）の推進について」健医発第 612 号、平成 12 年 3 月 31 日 http://www1.mhlw.go.jp/topics/kenko21_11/pdf/t0.pdf より 2015 年 10 月 15 日取得。出題のため、一部改変。

問2. 「健康日本 21」は、具体的な目標を提示し、2000年から2010年にかけての10年計画で行われた。

具体的な目標のひとつとして、「運動習慣者の割合」については、男性39%以上、女性35%以上の目標が掲げられた。次の図1と図2は、1997年と2009年の2時点での世代別の「運動習慣者の割合」を比較したものである（図1：男性、図2：女性）。この図について、次の（1）と（2）に答えなさい。

- (1) 図1と図2から考えられる課題を100字以内で述べなさい。
- (2) 図1と図2から考えられる課題を解決するためには、どのような取り組みが必要か。課題を一つ挙げ、その課題の解決方法を考え300字以内で述べなさい。

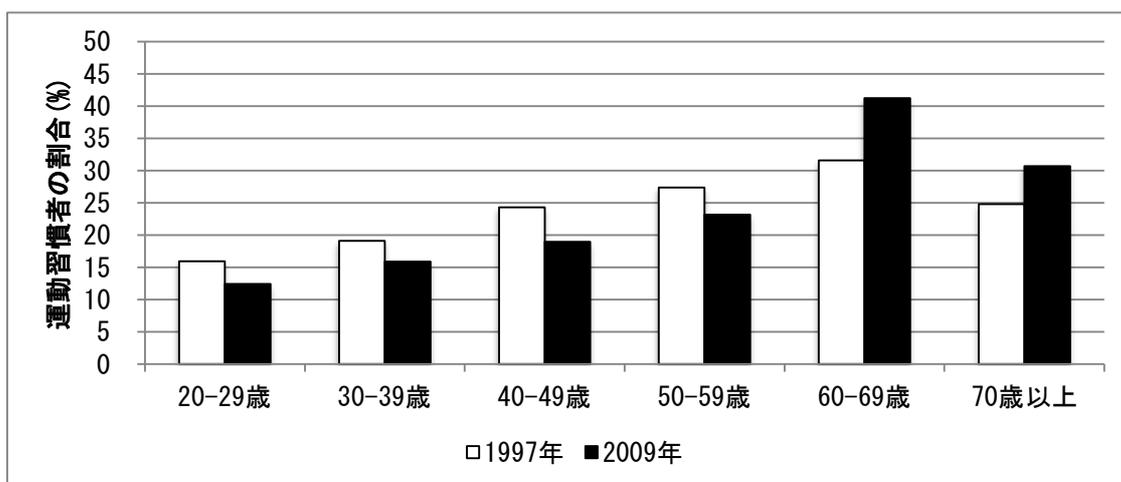


図1. 世代別の運動習慣者*の割合の推移（男性）

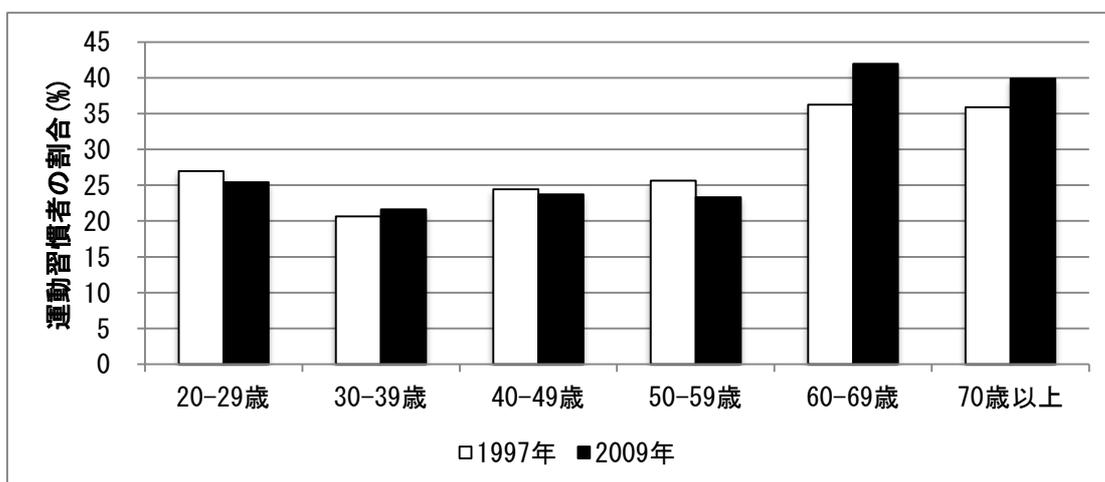


図2. 世代別の運動習慣者*の割合の推移（女性）

*「運動習慣者」の定義：1回30分以上の運動を週2日以上実施し、1年以上持続していること

出典：健康日本21評価作業チーム「健康日本21」最終評価 <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001r5gc-att/2r9852000001r5np.pdf> 2015年10月15日取得。出題のため、一部改変。